

厚生労働科学研究費補助金

循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業

生活習慣及び社会生活等が健康寿命に及ぼす影響の解析とその改善効果についての研究（19FA1012）

平成31年度～令和3年度 総合研究報告書

研究代表者 近藤 尚己

令和4（2022）年 5月

目次

I. 総合研究報告

生活習慣及び社会生活等が健康寿命に及ぼす影響の解析とその改善効果についての研究 1
近藤 尚己（京都大学大学院医学研究科）

II. 研究成果の刊行に関する一覧表 12

令和3年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
総括研究報告書

生活習慣及び社会生活等が健康寿命に及ぼす影響の解析と
その改善効果についての研究

研究代表者 近藤 尚己（京都大学大学院医学研究科社会疫学分野）
 研究分担者 細川 陸也（京都大学大学院医学研究科先端広域看護科学講座）
 尾島 俊之（浜松医科大学健康社会医学講座）
 相田 潤（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）
 近藤 克則（千葉大学予防医学センター社会予防医学研究部門
 /国立長寿医療研究センター
 老年学・社会科学研究センター老年学評価研究部）

研究要旨

健康寿命の延伸と健康格差の縮小に向けて、大規模な政府統計や国際比較データ、全国20万人規模の縦断データ（日本老年学的評価研究：JAGES）等を用いた疫学研究を行うこと、また、小地域単位で健康寿命を算出する方法を検討し、また、個人の社会生活要因や地域環境と健康寿命やその地域間格差との関係を明らかにすることで国や自治体政府が取り組むべき効果的で公正な健康増進施策のあり方を提案することを目的とした。地域のソーシャルキャピタル、居住地の農村的特徴、個人の社会参加状況（地域活動参加や就労）等、小地域単位の健康寿命と関連する要因を見出した。それら要因の偏在が健康格差の要因になっていることが示唆された。得られた結果をもとに、次期国民の健康づくり運動の目標策定に向けた政策提案を行った。すなわち、①市町村・社会階層間格差の視点からのモニタリングと対策、②ライフコースの視点からのモニタリングと対策、③社会環境の整備の視点からは、①環境の改善（ゼロ次予防）、②建造環境（Built Environment）、③Health in All Policiesの重要性、④評価の視点からは、①健康影響予測評価とプログラム評価の登録データベース、②多面的評価とロジックモデル、③データ収集・評価計画を組み込むことである。さらに、集団寄与危険当、集団レベルの効果評価や、都道府県等が活動を評価するための標準手法の提示（調査票作成など）、新型コロナウイルスのまん延に伴う社会変化を踏まえて、デジタル環境の公平性の確保することを追加した。近隣や社会全体といった様々なレベルの健康の社会的決定要因についての研究を進め、一層の理解を深めることで、より効果的な公衆衛生施策を考案し、展開することが可能になると期待される。

A. 研究目的

健康日本21（第二次）が目標に掲げるよう、健康の推進には健康寿命の延伸が重要である。健康寿命の延伸は保健医療を超えた社会全体の課題である。加えて、その格差の縮小も求められ

る。これらの目標達成のためには、健康寿命延伸に資する個人の要因（生活習慣・医療・介護サービス利用状況・社会経済状況・社会活動参加等）に加え、地域環境の要因、すなわち社会資源（ソーシャルキャピタル）や物理環境（公園や運動施

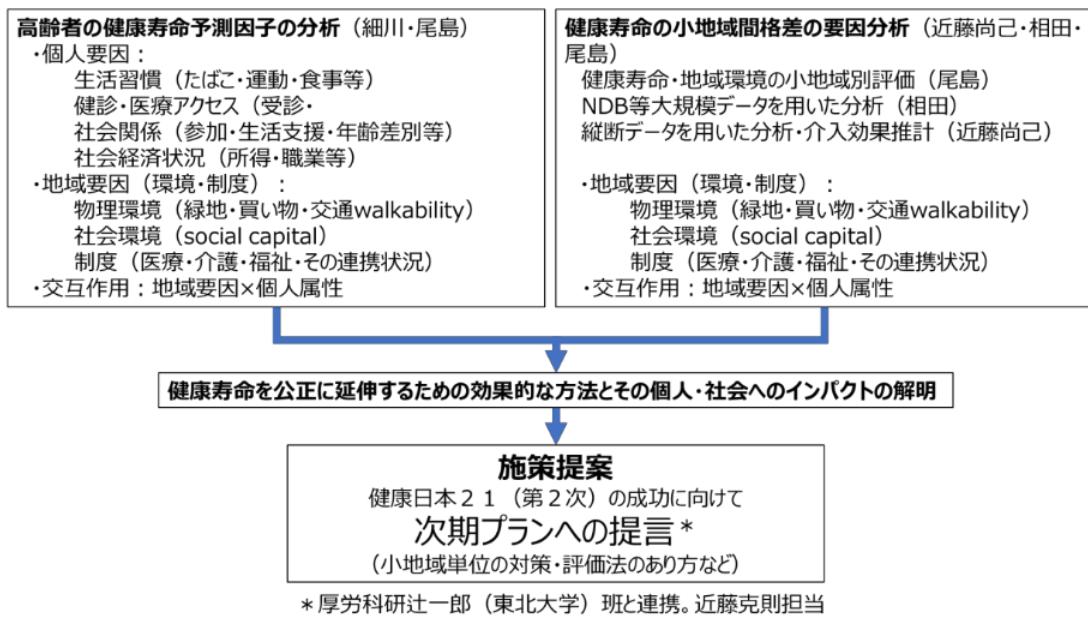


図1 研究計画の概要

設、歩道など交通環境、買い物環境など)、そして公的サービスの役割等を明らかにする必要がある。

これまで、大規模な政府統計や国際比較データ、全国20万人規模の縦断データ(日本老年学的評価研究:JAGES)等を用いて関連する研究を進めてきた(成果報告URL:www.jages.net/)。しかし、二次医療圏・市町村・包括圏域など、より行政活動に直結した単位での検討は十分なされていない。小地域での確実な健康寿命を算出する方法についても検討が必要である。

そこで本研究では、小地域単位で健康寿命を算出する方法を検討し、また、個人の社会生活要因や地域環境と健康寿命やその地域間格差との関係を明らかにすることで国や自治体政府が取り組むべき効果的で公正な健康増進施策のあり方を提案する(図1)。

B. 研究方法

1. 大規模コホート研究データを用いた分析

既存の大規模なデータや縦断データを用いて、健康寿命、すなわち日常生活の制限の無い期間及び日常生活が自立している(要介護2以上でな

いなど)期間を予測する個人要因と地域要因を解明するための分析を行った。地域要因を解明するために必要な、多様な複数の地域を含むマルチレベルデータを構築した。

(1) 日本老年学的評価研究(JAGES)の追跡データ収集

JAGESは全国規模の縦断データであり2010, 2013, 2016, 2019調査に参加した同一市町村において同一人物(及び新規の人)への郵送調査を行っている。市区町村や日常生活圏域ごとに集計し、地域単位の評価に活用する。個人単位の介護認定・賦課データ、レセプトデータを参加自治体から収集し結合しクリーニングを進めパネルデータを作成した(担当:近藤克則)。

(2) マルチレベル分析等を用いた研究

要介護認定全般、認知症を伴う要介護認定、日常生活の制限なし期間をアウトカムにしたマルチレベル生存時間分析等を行った。市区町村間・市区町村内(小学校区・包括圏域)ごとの地域社会環境情報を集計し、個人の健康寿命との関連を縦断的に観察した。

検討する項目として以下に着目した。

・個人要因：

生活習慣：食事バランス・身体活動・外出など

社会経済状況：所得・職業・生活保護受給の有無など

社会関係：社会的ネットワーク、地域活動参加など

・地域要因：

物理環境・社会環境：ソーシャルキャピタル（地域活動の活発さ・周囲への信頼・助け合い）、都市・農村度など。

（3）パネルデータを用いた多相生命表（Rogers 法等による分析（尾島、細川）

Rogers 法（多相生命表法）により健康日本 21（第二次）での健康寿命と同様の日常生活の制限の有無による健康寿命を算出し、個人レベルの健康寿命の関連因子を検証した。基礎資料として、JAGES による 2013 から 2019 年に追跡を行ったパネルデータを用いて、不健康の発生率と回復率、健康者の死亡率と不健康者の死亡率を使用した。健康寿命の算出は、マルコフ連鎖モデルに基づく SPACE（Stochastic Population Analysis for Complex Events）program を用いた。

2. 政府統計を用いた分析

（1）二次医療圏単位での健康寿命の算定（尾島、細川）

介護保険事業状況報告データ等の公開データを用いてサリバン法により二次医療圏毎の日常生活の自立している期間の平均を算出した。医療提供体制や地域の経済状況等の既存データとの関連を分析した。

（2）国民生活基礎調査等の二次利用による分析（尾島）

各種症状・K6（抑うつスケール）等・受療状況と日常生活の制限の分析や、リスク低減時の寄与

的改善効果の推計を、高齢層と壮年層に分けて実施した。Myojin & Ojima et al, J Epidemiol 2017 の手法に倣い集団寄与危険を算出した。

（3）National Data Base（NDB）等を用いた分析（相田）

NDB を用いた健診受診状況、標準的な質問票による生活習慣の市町村別数値を二次医療圏毎に集計して健康寿命との関連を分析した。

3. 健康寿命を延伸し健康格差を縮小する方法とそのインパクトの解明、及び政策提案（近藤克則）

上記のうち、特に縦断研究に関しては、各種健康リスクを取り除いた場合の健康寿命延伸の寄与効果を、集団寄与危険の算出等により推計した。また、収集・構築したデータを用いて、関連する複数のテーマの分析を進めた。

結果をもとに、健康寿命延伸の推計及び国及び自治体が取り組むべき健康増進施策を提案する。健康日本 21（第 2 次）の次期プランへの提案に際しては、厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会健康日本 21（第二次）推進専門委員会委員である近藤克則が研究分担者となっており、さらに委員長である東北大学の辻一郎教授と連携する体制に基づき、実施した。

（倫理面への配慮）

調査・研究の実施に当たっては、千葉大学ならびに国立長寿医療研究センター、研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した。

C. 研究結果

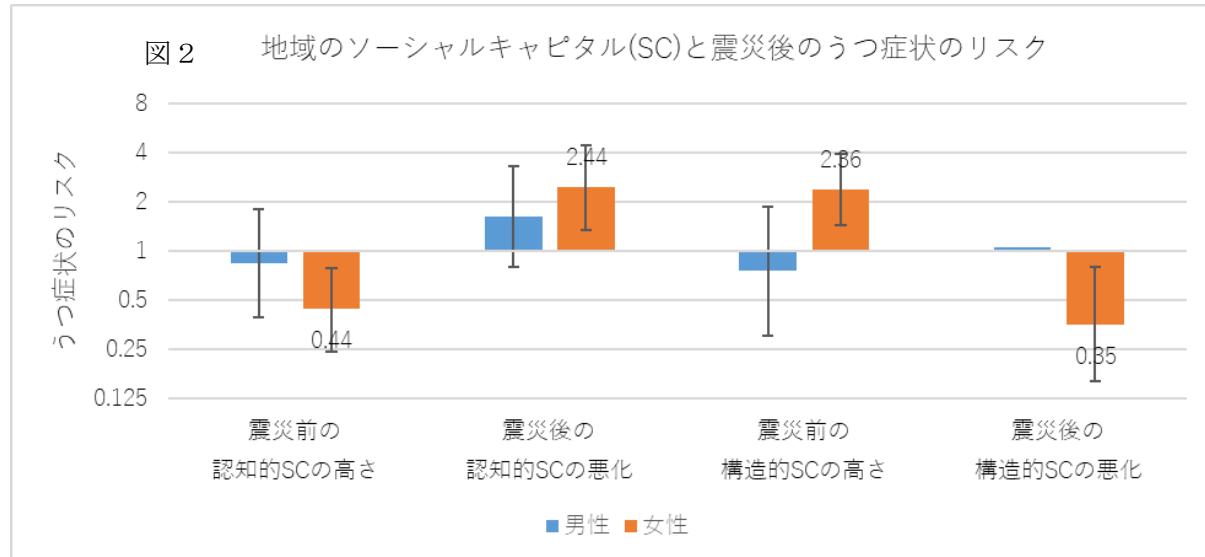
1. 大規模コホート研究データを用いた分析

（1）日本老年学的評価研究（JAGES）の追跡データ収集

2019・2020 年度にかけて、全国 66 市町村から協力を得られることになった。複数の研究費と市

町村からの調査受託費を用い、対象市町村において 65 歳以上の対象者に調査票を郵送した。調

震災後に認知的 SC が下がった地域ではリスクが高まつた。また、女性において、構造



査票の構成は、①全員を対象とした調査説明と協力依頼、および ②コア項目、③ランダムに 8 等分した対象者に対する A～H バージョン項目、④市町村独自項目とした。最終的に、約 38.5 万人に配布し、約 26.5 万人から回答を得た(回収率: 68.8%)。このデータをクリーニングすると同時に、縦断データの構築も行った。縦断データは、今回の調査と過去に実施した 2010、2013、2016 調査データを結合したパネルデータ、過去の調査回答者を 2019 年度まで追跡し、市町村のもつ要介護認定、死亡データと結合したコホートデータを整備した。

(2) マルチレベル分析等を用いた研究(全担当者)

構築したデータを用いて、複数の分析を行つた。主な結果を提示する。

1) 熊本地震前後の同災害の被害を受けた熊本県御船町のデータを分析したところ、震災 7か月後のうつ症状について、女性では、震災前の認知的ソーシャルキャピタル (SC) が高い地域でリスクが低かったのに対し、

的 SC は、認知的 SC と正反対の効果(震災前の構造的 SC が高い地域でうつ症状のリスクが高い)という結果が得られた(図 2)。

- 2) 高齢者の健康水準が向上してきた背景要因として、社会参加が 6 年間で 3～7% 増加していること、社会参加の内訳としては、前期高齢者は就労、後期高齢者はグループ活動への参加が増加していることが分かった。
- 3) 子どもの頃に逆境体験があった高齢者は、野菜・果物不足等健康リスクとなりうる生活習慣が多い可能性が高く、女性では逆境体験が 2 つ以上あると 64% 増であったことが分かった。
- 4) 笑わない人で口腔衛生が悪く要介護リスクが 1.4 倍高いことが分かった。
- 5) 建造環境について、緑地が多い地域でうつが少ないと、小学校に近い地域に暮らす女性でうつが少ないと明らかになった。
- 6) JAGES のデータを分析したところ、農村的な自治体ほど抑うつのリスクが高いが、男性では、農村的な近隣コミュニティ(小学校区単位) うつに対しては保護的に関連していた(Kanamori et al, 2021)。
- 7) コミュニティのソーシャルキャピタルは、

高齢者の地域活動参加を介して食生活の改善につながるというメカニズムが明らかとなつた(Nishio et al, 2021)。

8) 地域活動への参加や身体活動が活発な人ほどその後の介護費が少ないことが明らかとなった(Saito et al, 2021; Hirai et al, 2021)。

(3) パネルデータを用いた多相生命表(Rogers 法)等による分析(尾島、細川)

健康寿命に関する個人レベルの特徴を検証したところ、地域レベルの分析結果と同様に、社会経済状況、社会活動、外出・他者との交流、近隣環境、健康関連指標、健康行動、要介護リスクとの関連がみられた。さらに、それらの因子によって、どの程度の健康寿命の差が生じるのかを明らかにした。

2. 政府統計を用いた分析

(1) 二次医療圏単位での健康寿命の算定(尾島、細川)

Sullivan 法による地域レベル(二次医療圏・市区町村単位)の健康寿命の関連因子の検証
公開データを用いて、Sullivan 法により健康寿命を算出し、地域レベル(二次医療圏・市区町村単位)の関連因子を検証した。分析の結果、二次医療圏間の健康寿命の地域格差(下図参照)、健康

寿命に関する医療提供体制(医療従事者数、在宅医療施設数、歯科医療費など)の特徴を明ら

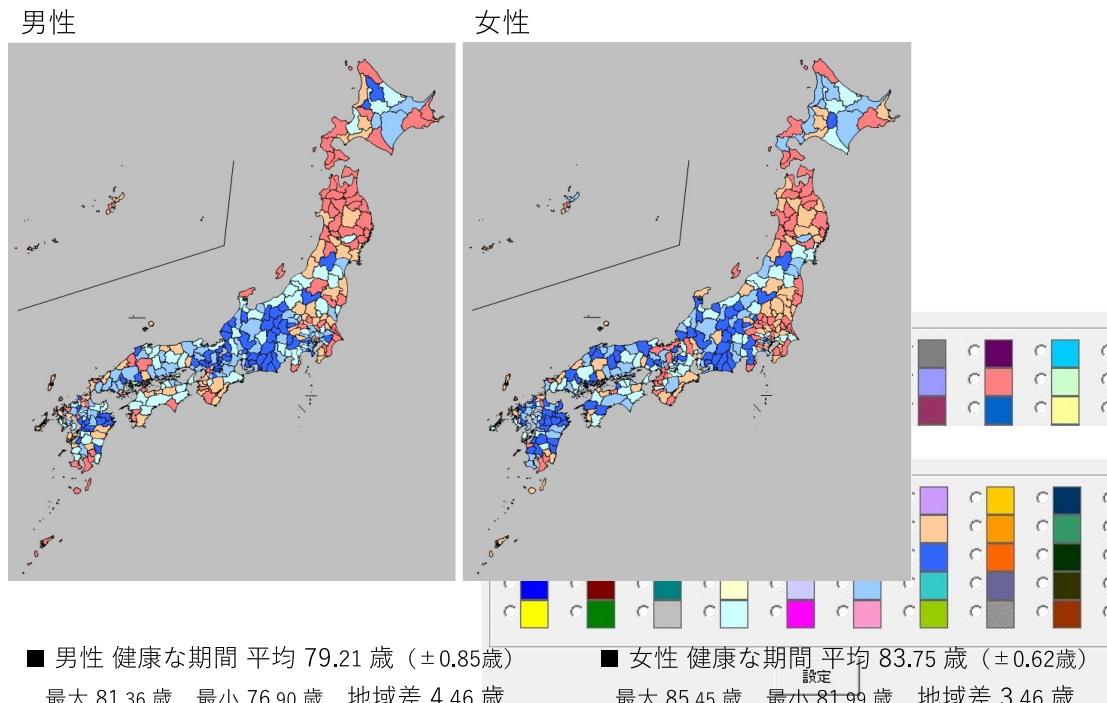


図 3

図. 二次医療圏別でみた健康寿命の分布

かにした(Hosokawa et al, IJERPH 2020)。

さらに、各疾患の死亡率が健康寿命にどの程度関連しているのかについて、SMR(Standardized Mortality Ratio)を用いて検証したところ、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、自殺等の SMR と健康寿命に強い関連がみられた(図3)。

また、年齢調整を行った死亡率・要介護認定割合を用いた回帰式が、高い精度で健康寿命を予測できることを明らかにした(尾島 他, 日本循環器病予防学会 2020)。

さらに、日本老年学的評価研究(JAGES)2016年調査のデータを用いて、健康寿命に関する市区町村単位の地域の特徴を検証したところ、社会経済状況、社会活動、外出・他者との交流、近隣環境、健康関連指標(歯科の健康、抑うつ傾向など)、健康行動(健康診査の受診、喫煙習慣など)との関連がみられた。

ナウイルス感染拡大の中、注視しなければならない指標であるが、健康寿命延伸の観点からも失

(2) 国民生活基礎調査等の二次利用による分析

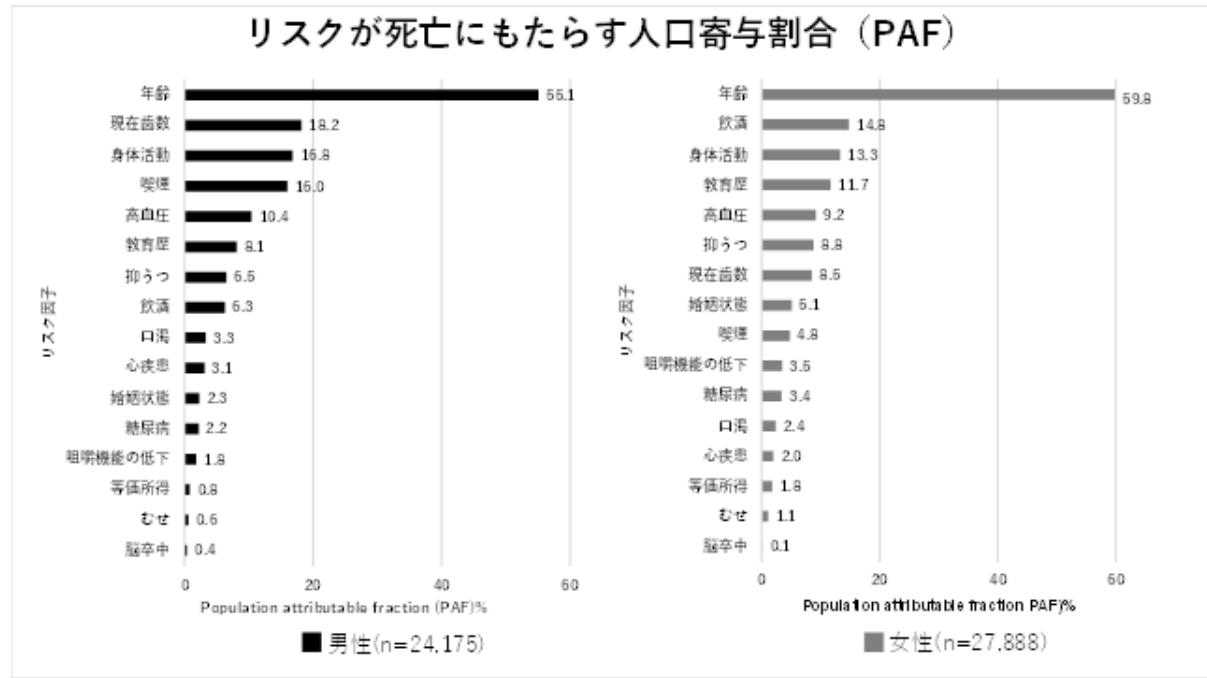


図4. 高齢者における各要因の死亡への寄与（人口寄与割合（PAF）%）(Nakazawa et al, 2022)

(尾島)

(3) National Data Base (NDB) 等を用いた分析 (相田)

都道府県単位の健康寿命と NDB オープンデータを用いて行った。研究1年目には、平成25年度及び平成28年度のエコロジカル研究の分析を行い、男女双方において健康寿命が長いことと有意に関連していた要因として、十分な休養が取れること、平均気温が高いこと、BMI30以上でないことなどが共通要因として抽出された。

これをさらに進めた2年目の研究では、都道府県の完全失業率が男女双方において健康寿命が短いことと有意に関連していることを明らかにした(男性:都道府県の完全失業率が1%高くなると健康寿命は約1.8ヶ月短くなる関連;女性:都道府県の完全失業率が1%高くなると健康寿命は約1.7ヶ月短くなる関連)。完全失業率は、新型コロ

業対策は重要であると考えられた。

3年目には個人単位のコホート研究の分析を行った。健康長寿を考える上で、生存に影響する修正可能なリスク因子の同定と改善に注目が集まっている。口腔疾患は、予防可能、そして修正可能であるにもかかわらず、その有病率は世界的にも著しく高いが、修正可能なリスクが死亡にもたらす人口寄与割合(PAF)などを算出するような研究において、これまで口腔状態は評価されてこなかった。そこで修正可能なリスクが死亡にもたらす影響の大きさを明らかにすることを目的に研究を行った。その結果、男性では修正可能なリスク因子の中で無歯頸が最も高いハザード比(HR=1.67, 95%CI[1.51-1.86])を示し、女性では喫煙に次いで2番目に高いハザード比(1.37 [1.19-1.56])を示した。これらのハザード比をもとにPAFを算出したところ、男性では歯の本数によるPAFが最も大きな値(18.2%)を示した。健康寿命の延伸を考え

る上で健康リスクの1つとして、口腔の健康状態を含めた検討を行っていくことが重要であることが明らかになった。

3年間の研究から、失業率のような社会的決定

論文、学会発表を実施した。

通いの場やスポーツの会などへの社会参加が介護予防や健康寿命延伸に寄与しており、健康指標の地域格差要因となることを明らかに

健康日本21(第3次)に向けた課題

近藤克則: 健康格差に対する日本の公衆衛生の取り組みーその到達点と今後の課題

視点	第2次で見えてきた 課題	第3次で期待される対策
1) 健康格差 の縮小	<ul style="list-style-type: none">市町村格差や社会経済階層間格差は?公表されているデータがない	<ul style="list-style-type: none">① 市町村・社会階層間格差の視点からのモニタリングと対策② ライフコースの視点からのモニタリングと対策
2) 社会環境 の整備	<ul style="list-style-type: none">地域のつながり、企業、活動拠点、自治体以外の環境は?評価をしなければ格差を広げる恐れも	<ul style="list-style-type: none">① ゼロ次予防を謳うべき② 建造環境 (Built Environment) の重要性③ "Health in All Policies"
3) 評価	<ul style="list-style-type: none">EBPMにはもっと多面的な評価が必要。必要なデータがない	<ul style="list-style-type: none">① 健康影響予測評価とプログラム評価の登録データベース② 多面的評価とロジックモデル③ データ収集・評価計画

図5 政策提案（2020年度）

近藤克則: 公衆衛生 84(6):368-74, 2020

要因は個人の行動や健康を左右し、健康格差とその格差に影響していると考えられた。本研究で新たに明らかになった口腔の健康を含む、個人要因および所得や就業状況といった大きな影響を持つ社会的決定要因を考慮した対策が健康寿命の延伸とその格差の縮小に必要と考えられた。

3. 健康寿命を延伸し健康格差を縮小する方法とそのインパクトの解明、及び政策提案(近藤克則)

JAGES の既存データ、1) で整備したデータを用い、個人の社会生活要因や個人を取り巻く地域環境に着目し、健康寿命を延伸し健康格差を縮小する方法とそのインパクトの解明に関する分析を前述の報告内容に加えて行い、多数の

した。さらに、①子ども期の貧困や教育などのライフコース、②建造環境 (Built Environment)、③インターネット利用が高齢者の健康と関連し、健康格差の縮小策になりうることを報告した。

D. 考察

以上の分析成果を踏まえ、健康寿命を延伸し、健康格差を縮小する方法の根拠を整理し、それをもとに 2020 年度に政策提案をまとめた (図 5)。健康格差の縮小の視点からは、①市町村・社会階層間格差の視点からのモニタリングと対策、②ライフコースの視点からのモニタリングと対策、2) 社会環境の整備の視点からは、

①ゼロ次予防、②建造環境（Built Environment）、③”Health in All Policies”の重要性、3)評価の視点からは、①健康影響予測評価とプログラム評価の登録データベース、②多面的評価とロジックモデル、③データ収集・評価計画を組み込むことを提案した。さらに、国や自治体が取り組むべき効果的で公正な健康増進施策として、健康日本21(第3次)」におけるモニタリング・PDCAサイクルを回すための調査データのひな形の掲示することなどを提案した。

加えて、2021年度には、年度内の集団的效果の推計に関する成果や、新型コロナ感染症による社会変化を踏まえて進めた分析結果に基づき、下記の提案を追加した。

<2021年度政策提案（追加）>

1. 集団寄与危険など、集団的な効果の推計値を重視する
2. 健康寿命を延伸し、健康格差を縮小するために、国や自治体が取り組むべき効果的で公正な健康増進施策として、健康日本21(第三次)」におけるモニタリング・PDCAサイクルを回すための調査データのひな形の掲示
3. デジタルデバイド対策：デジタル機器やオンラインサービスへのアクセスの公平性を保つための環境整備を進めること

E. 結論

大規模な縦断追跡研究のデータをさらに加工して利用を進め、また国内の政府統計データを用いて、健康寿命やその社会的な集団、地域間の格差と関連する要因について、特に健康の社会的決定要因に着目して分析を進めた。また、二次医療圏等小規模な単位で健康寿命を算出し、その関連要因を明らかにした。その結果、

地域の社会環境や個人の社会関係（地域活動参加、就労、地域のソーシャルキャピタル等）、社会経済など健康寿命の差をもたらす要因が明らかになった。これまで十分に注目され研究が進められていなかったこととして、口腔の健康状態の維持、幼少期の逆境体験、近隣の環境（農村的な環境など）が健康に及ぼす影響やそのメカニズムが明らかになった。近隣の環境も、市区町村や小学校区など、本人との近接性や自治体の持つ機能の相違によって測定した特徴が持つ意味合いが異なり、健康への影響も異なることが示唆された。

これらの結果を踏まえ、前述の政策提案に基づき次期国民健康づくり計画を策定することを推奨する。また、近隣や社会全体といった様々なレベルの健康の社会的決定要因についての研究を進め、一層の理解を深めることで、より効果的な公衆衛生施策を考案し、展開することが可能になると期待される。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

別添4 成果物刊行一覧のとおり

2. 学会発表

- 1) 尾島俊之、細川陸也、岡田栄作、柴田陽介、中村美詠子、近藤尚己、近藤克則.
地域の就業者割合と健康寿命の関連. 第92回日本産業衛生学会, 名古屋市,
2019年5月22~25日.
- 2) Ojima T. Comparison of Healthy Life Years by GALI between Japan and EU countries. 31th REVES (Réseau espérance de vie en santé), Barcelona,

Spain, May 29-31, 2019.

- 3) 尾島俊之、細川陸也、相田潤、近藤尚己、近藤克則. 浜松市の健康寿命の規定要因. 第 65 回東海公衆衛生学会学術大会, 名古屋市, 2019 年 7 月 6 日.
 - 4) 第 31 回日本疫学会学術総会. 西尾 麻里沙, 高木 大資, 篠崎 智大, 近藤 尚己. 「地域の社会的ネットワーク・個人の社会参加・食行動の関連 非線形構造方程式モデルを用いた媒介分析」2021 年 1 月
 - 5) 第 31 回日本疫学会学術総会. 西岡 大輔, 上野 恵子, 木野 志保, 相田 潤, 近藤 尚己. 「生活保護受給者の歯科サービス利用の格差に関する社会背景要因」2021 年 1 月
 - 6) 第 31 回日本疫学会学術総会. 木野志保, 木野志保, 西岡大輔, 西岡大輔, 上野恵子, 上野恵子, 近藤尚己. 「高レベル ADL, 社会資本, および出発する公共支援プログラム【JST・京大機械翻訳】」2021 年 1 月
 - 7) 第 31 回日本疫学会学術総会. 片岡 葵, 福井 敬祐, 佐藤 倫治, 菊池 宏幸, 井上 茂, 近藤 尚己, 中谷 友樹, 伊藤 ゆり 「都道府県内の健康寿命・平均寿命の社会経済格差と都道府県全体の健康指標における関連性の検討」2021 年 1 月
 - 8) 第 56 回日本循環器病予防学会. 尾島 俊之, 細川 陸也, 相田 潤, 近藤 克則, 近藤 尚己. 健康寿命の簡便な計算方法の開発. 2020 年 12 月
 - 9) グローバスヘルス合同大会 2020. 森田 直美, 金森 万里子, 能智 正博, 近藤 尚己. 「関東圏在住外国人における医療アクセスが困難な人の特徴とアクセスの抑制因子および効果的な支援策に関する混合研究」 2020 年 11 月.
 - 10) 第 79 回日本公衆衛生学会総会. 宮國 康弘, 斎藤 雅茂, 辻 大士, 近藤 尚己, 近藤 克則. 「地域レベルの社会参加と介護給付費との関連 JAGES 縦断データによるマルチレベル分析」2020 年 10 月
- 1 1) 第 79 回日本公衆衛生学会総会. 長谷 田 真帆, 坪谷 透, 杉山 賢明, 近藤 克則, 近藤 尚己. 「希望する最期の場所の選びにくさと社会経済的状況の関連 JAGES 横断研究」2020 年 10 月
 - 1 2) 第 79 回日本公衆衛生学会総会. 金森 万里子, 花里 真道, 高木 大資, 近藤 克則, 尾島 俊之, 近藤 尚己. 「都市/農村の抑うつの格差 市町村・小学校区の地区単位別の検討 JAGES 」2020 年 10 月
 - 1 3) 第 79 回日本公衆衛生学会総会. 近藤 尚己, 西岡 大輔, 上野 恵子, 斎藤 順子, 木野 志保. 「独居・不就労と頻回受診 生活保護受給者管理情報と医療扶助レセプトの連結データ解析」2020 年 10 月
 - 1 4) 第 79 回日本公衆衛生学会総会. 金森 悟, 近藤 尚己, 高宮 朋子, 菊池 宏幸, 井上 茂, 辻 大士, 甲斐 裕子, 武藤 剛, 近藤 克則. 「男性高齢者における最長職の企業規模別の社会参加と死亡との関連 JAGES スタディ」2020 年 10 月
 - 1 5) 第 123 回日本小児科学会. 西岡 大輔, 近藤 尚己. 生活保護受給世帯の子どもの健康に関する社会背景要因 自治体の生活保護データ分析. 2020 年 8 月
 - 1 6) 第 62 回日本老年社会科学会. 斎藤 雅茂, 藤田 欽也, 近藤 尚己, 近藤 克則. 高齢者の社会参加頻度によるその後の介護費用の相違 複数自治体 6 年間の介護レセプトに基づく再検証. 2020 年 6 月
 - 1 7) 第 93 回日本産業衛生学会. 尾島 俊之, 細川 陸也, 明神 大也, 相田 潤, 近藤 克則, 近藤 尚己. 全国の二次医療圏

- 単位でみた就業者割合と健康寿命の関連.
2020年5月
- 1 8) 第32回日本疫学会学術総会. 長谷田 真帆, 近藤 尚己. 「エビデンスに基づく健康格差対策の実際」 2022年1月
 - 1 9) 第32回日本疫学会学術総会. 長嶺 由衣子, 藤原 武男, 近藤 尚己, 古賀 千絵, 中込 敦士, 井出 一茂, 近藤 克則. 「傾向スコアマッチング法による地域在住高齢者のICT利用頻度とIADLの変化の関連～JAGES2016-2019パネルデータ分析～」 2022年1月
 - 2 0) 第32回日本疫学会学術総会. 片岡 葵, 福井 敬祐, 佐藤 倫治, 西岡 大輔, 菊池 宏幸, 井上 茂, 近藤 尚己, 中谷 知樹, 伊藤 ゆり. 「人口規模・社会経済状況を考慮した健康寿命の都道府県内格差の計測」 2022年1月
 - 2 1) 第32回日本疫学会学術総会. 木野 志保, 西岡 大輔, 上野 恵子, 斎藤 雅茂, Andrew Stickley, 近藤 尚己. 「高齢生活保護受給者の自殺願望、自殺企図、自傷行為：JAGES2019横断研究」 2022年1月
 - 2 2) 第32回日本疫学会学術総会. 松岡 洋子, 長谷田 真帆, 金森 万里子, 佐藤 豪童, 雨宮 愛理, 尾島 俊之, 高木 大資, 花里 真道, 近藤 尚己. 「熊本地震後の転居がグループ参加の変化を通じて高齢者の精神的健康に与える影響：住宅形態別の比較」 2022年1月
 - 2 3) 第32回日本疫学会学術総会. 井上 浩輔, Karol Watson, Kenrik Duru, 近藤 尚己. 「厳格な血圧管理が心血管イベントを抑制する効果の、人種・居住形態による異質性評価：大規模 RCT の一般化応用」 2022年1月
 - 2 4) 第80回日本公衆衛生学会総会. 近藤 尚己. 「部門連係による健康格差是正の取り組みの実践と評価」 2021年12月
 - 2 5) 第80回日本公衆衛生学会総会. 西尾 麻里沙, 長谷田 真帆, 金森 万里子, 荒川 裕貴, 近藤 尚己. 「日本および諸外国のヘルスプロモーション施策における社会環境整備の視点」 2021年12月
 - 2 6) 第80回日本公衆衛生学会総会. 近藤 尚己, 西尾 麻里沙, 相田 潤, 田淵 貴大, 長谷田 真帆, 金森 万里子, 荒川 裕貴, 伊藤 ゆり. 「これから10年の活動に向けた社会環境整備目標の項目提案」 2021年12月
 - 2 7) 第80回日本公衆衛生学会総会. 金森 万里子, 岡 壇, 竹村 幸祐, 小林 由美子, 近藤 克則, 近藤 尚己. 「ジェンダー規範と精神的健康：日本老年学的評価研究2019年調査データを用いた横断研究」 2021年12月
 - 2 8) 第80回日本公衆衛生学会総会. 辻 大士, 高木 大資, 近藤 尚己, 丸山 佳子, Ling Ling, 王 鶴群, 井出 一茂, 近藤 克則. 「地域づくりによる介護予防は地域間の健康格差を是正するか？：8年間の連続横断研究」 2021年12月
 - 2 9) 第80回日本公衆衛生学会総会. 西尾 麻里沙, 近藤 尚己. 「高齢期の社会参加は、幼少期の逆境体験の影響を緩和させるか」 2021年12月
 - 3 0) 第80回日本公衆衛生学会総会. 井出 一茂, 中込 敦士, 仕子 優樹, 塩谷 竜之介, 古賀 千絵, 長嶺 由衣子, 辻 大士, 近藤 尚己, 近藤 克則. 「高齢者の社会経済階層に着目したデジタルデバイドの変化：JAGESマルチレベル分析」 2021年12月
 - 3 1) 第80回日本公衆衛生学会総会. 木野

	志保, 西岡 大輔, 上野 恵子, 近藤 尚己. 「生活保護制度の利用を開始または終了したことによる社会関係の変化: JAGES 横断研究」 2021 年 12 月	H. 知的財産権の出願・登録状況
3 2)	第 80 回日本公衆衛生学会総会. 西岡 大輔, 近藤 尚己. 「生活保護利用世帯への給付額減少が世帯医療費に与える影響: 準実験研究」 2021 年 12 月	1. 特許取得 なし
3 3)	第 12 回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会. 長谷田 真帆, 坪谷 透, 杉山 賢明, 近藤 克則, 近藤 尚己. 「かかりつけ医の存在は最期の場所の話し合いに関する社会階層間格差を緩和するか: JAGES 横断研究」 2021 年 5 月	2. 実用新案登録 なし
3 4)	第 12 回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会. 西岡 大輔, 玉木 千里, 古坂 規子, 中川 洋寿, 近藤 尚己. 「無料定額診療事業の利用者の社会背景と健康関連 QOL の変化との関連: 京都無低診コホートより」 2021 年 5 月	3. その他 なし
3 5)	日本老年社会学会第 63 回大会. 村中峯子, 藤並祐馬, 伊藤大介, 斎藤雅茂, 近藤尚己, 近藤克則. 「高齢者の社地域共生社会の実現に向けた成果指標に関する調査研究: 包括的支援事業のための 7 つのプロセスチェックリストの開発」 2021 年 6 月	
3 6)	日本老年社会学会第 63 回大会. 平井寛, 近藤克則, 斎藤雅茂, 近藤尚己. 「サロンへの参加状況とその後 6 年間の累積介護費用: 武豊プロジェクト」 2021 年 6 月	

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Kondo N, Kondo K	Stroke (Chapter 6)	Kondo K	Social Determinants of Health in Non-communicable Diseases: Case Studies from Japan	Springer	Singapore	2020	53-60
Ojima T	Policy Relevance of Health Expectancy in Health Promotion.	Jagger C, et al.	International Handbook of Health Expectancies.	Springer Nature Switzerland	Cham	2020	191-200.
Hiyoshi A, Kondo N.	Trends in Health inequality (Chapter 10)	Brunner E, Cable N, Iso H.	The Social Epidemiology of Japan Since 1945	Health/ Big in Japan	Oxford University Press	2020	147-161
Kondo N, Aida J.	Disaster and Health: What Makes a Country Resilient? (Chapter 18).	Brunner E, Cable N, Iso H.	The Social Epidemiology of Japan Since 1945	Health/ Big in Japan	Oxford University Press	2020	281-295
近藤克則、尾島俊之、近藤尚己他	ポストコロナ時代の「通いの場」	近藤克則	ポストコロナ時代の「通いの場」	日本看護協会出版会	東京	2022	1-147
Naoki Kondo, Chie Koga and Yuiko Nagamine	Understanding the role of Internet access and Yess on health and health equity toward healthy ageing in the Western Pacific Region	Naoki Kondo, Chie Koga and Yuiko Nagamine	Understanding the role of Internet access on health and health equity toward healthy ageing in the Western Pacific Region	JAGES	-	2021	1-162
Hannah Ensaaff, Naoki Kondo	Chapter16 Choice Architecture and Judging for Better Food Choice	Charlotte E. NL Evans	Transforming Food Environments.	CRC press	-	2022	235

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Abbas H, Aida J, Cooray U, Ikeda T, Koyama S, Kondo K, Osaka K	Does remaining teeth and dental prosthesis associate with social isolation? A six-year longitudinal study from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES).	Community Dent Oral Epidemiol.	Online ahead of print.		2022
Arafa A, Eshak ES, Shirai K, Iso H, Kondo K.	Engaging in musical activities and the risk of dementia in older adults: A longitudinal study from the Japan gerontological evaluation study.	Geriatr Gerontol Int	21(6)	451-457	2021
Fuji Y, Sakaniwa R, Shirai K, Saito T, Ukawa S, Iso H, Kondo K.	The number of leisure-time activities and risk of functional disability among Japanese older population: the JAGES cohort.	Prev Med Rep	26	101741	2022
Gero K, Yazawa A*, Kondo N, Hanazato M, Kondo K, Kawachi I.	Comparison of three indices of relative income deprivation in predicting health status.	Soc Sci Med.	294	114722	2022
Haseda M, Takagi D, Kondo K, Kondo N.	Effectiveness of community organizing interventions on social activities among older residents in Japan: A JAGES quasi-experimental study.	Soc Sci Med.	240	112527	2019
Haseda M, Takagi D, Stickley A, Kondo K, Kondo N*.	Effectiveness of a community organizing intervention on mortality and its equity among older residents in Japan: A JAGES quasi-experimental study.	Health Place.	74	102764	2022
Hirai H*, Saito M, Kondo N, Kondo K, Ojima T.	Physical Activity and Cumulative Long-Term Care Cost among Older Japanese Adults: A Prospective Study in JAGES.	International journal of environmental research and public health.	18(9).	5004	2021

Hirosaki M, Ohira T, Shirai K, Kondo N, Aida J, Yamamoto T, Takeuchi K, Kondo K	Association between frequency of laughter and oral health among community-dwelling older adults: a population-based cross-sectional study in Japan.	Qual Life Res	30(6)	1561-1569	2021
Hosokawa R, Ojima T, Myojin T, Aida J, Kondo K, Kondo N	Associations Between Healthcare Resources and Healthy Life Expectancy: A Descriptive Study across Secondary Medical Areas in Japan.	Int J Environ Res Public Health	17(17)	6301	2020
Ide K, Tsuji T, Kanamori S, Jeong S, Nagamine Y, Kondo K.	Social Participation and Functional Decline: A Comparative Study of Rural and Urban Older People, Using Japan Gerontological Evaluation Study Longitudinal Data.	Int J Environ Res Public Health.	18	617	2020
Ikeda T, Cable N, Saito M, Koyama S, Tsuji T, Noguchi T, Kondo K, Osaka K, Aida J	Association between social isolation and smoking in Japan and England.	J Epidemiol	31(10)	523-529.	2021
Inoue Y*, Stickley A, Yazawa A, Aida J, Koyanagi A, Kondo N.	Childhood adversities, late-life stressors and the onset of depressive symptoms in community-dwelling older adults.	Aging and Mental Health.	26(4)	828-833(Epub 2021 Feb 1.)	2022
Ito K, Cable N, Yamamoto T, Suzuki K, Kondo K, Osaka K, Tsakos G, Watt RG, Aida J	Wider Dental Care Coverage Associated with Lower Oral Health Inequalities: A Comparison Study between Japan and England..	Int J Environ Res Public Health	17	15	2020
Iwai-Saito K, Shobugawa Y, Kondo K.	Social capital and pneumococcal vaccination (PPSV23) in community-dwelling older Japanese: a JAGES multilevel cross-sectional study.	BMJ Open	11(6)	e043723	2021
Kanamori M, Hanazato M, Kondo K, Stickley A, Kondo N*.	Neighborhood farm density, types of agriculture, and depressive symptoms among older	BMC Public Health.	21(1)	440	2021

	farmers: a cross-sectional study.				
Kanamori M, Hanazato M, Takagi D, Kondo K, Ojima T, Amemiya A, Kondo N.	Differences in depressive symptoms by rurality in Japan: a cross-sectional multilevel study using different aggregation units of municipalities and neighborhoods (JAGES).	Int J Health Geogr.	20(1)	42	2021
Kanamori S*, Kondo N, Takamiya T, Kikuchi H, Inoue S, Tsuji T, et al.	Social participation and mortality according to company size of the longest-held job among older men in Japan: A 6-year follow-up study from the JAGES.	J Occup Health.	63(1)	e12216.	2021
Kato D*, Kawachi I, Saito J, Kondo N.	Complex multimorbidity and mortality in Japan: a prospective propensity-matched cohort study.	BMJ Open.	11(8)	e046749.	2021
Katsuyama Y, Kondo K, Kojima M, Kamiji K, Ide K, Iizuka G, Muto G, Uehara T, Noda K, Ikusaka M.	Mortality risk in older Japanese people based on self-reported dyslipidemia treatment and socioeconomic status: The JAGES cohort study.	Prev Med Rep	27	101779	2022
Kino S*, Nishioka D, Ueno K, Haseda M, Kondo N.	Public assistance program and depressive symptoms of the recipient: a cross-sectional Japan Gerontological Evaluation Study.	BMC Geriatr.	22(1)	177	2022
Kino S*, Nishioka D, Ueno K, Saito M, Kondo N.	Changes in social relationships by the initiation and termination of public assistance in the older Japanese population: A JAGES panel study.	Soc Sci Med.	293	114661	2021
Kinugawa A, Kusama T, Yamamoto T, Kiuchi S, Nakazawa N, Kondo K, Osaka K, Aida J	Association of poor dental status with eating alone: A cross-sectional Japan gerontological evaluation study among independent older adults.	Appetite.	168(1)	105732	2022

Kiuchi S, Cooray U, Kusama T, Yamamoto T, Abbas H, Nakazawa N, Kondo K, Osaka K, Aida J.	Oral Status and Dementia Onset: Mediation of Nutritional and Social Factors.	J Dent Res	101(4)	420-427	2022
Koryu Sato, Airi Amemiya, Maho Haseda, Daisuke Takagi, Mariko Kanamori, Katsunori Kondo, Naoki Kondo	Postdisaster Changes in Social Capital and Mental Health: A Natural Experiment From the 2016 Kumamoto Earthquake..	American Journal of Epidemiology	189(9)	910– 921	2020
Moriki Y, Haseda M, Kondo N, Ojima T, Kondo K, Fukui S	Factors Associated With Discussions Regarding Place of Death Preferences Among Older Japanese: A JAGES Cross-Sectional Study.	American Journal of Hospice and Palliative Medicine	38(1)	54-61.	2021
Nakagomi A*, Shiba K, Kawachi I, Ide K, Nagamine Y, Kondo N, Hanazato M, Kondo K.	Internet use and subsequent health and well-being in older adults: An outcome-wide analysis.	Computers in Human Behavior.	130	107156	2022
Nakazawa N, Kusama T, Cooray U, Yamamoto T, Kiuchi S, Abbas H, Yamamoto T, Kondo K, Osaka K, Aida J	Large contribution of oral status for death among modifiable risk factors in older adults: the JAGES prospective cohort study.	J Gerontol A Biol Sci Med Sci.	Online ahead of print.		2022
Nishida M, Hanazato M, Koga C, Kondo K	Association between Proximity of the Elementary School and Depression in Japanese Older Adults: A Cross-Sectional Study from the JAGES 2016 Survey.	Int J Environ Res Public Health	18(2)	500	2021
Nishigaki M, Hanazato M, Koga C, Kondo K	What Types of Greenspaces Are Associated with Depression in Urban and Rural Older Adults? A	Int J Environ Res Public Health	17(24)	9276	2020

	Multilevel Cross-Sectional Study from JAGES.				
Nishio M*, Green M, Kondo N.	Roles of participation in social activities in the association between adverse childhood experiences and health among older Japanese adults.	SSM-Population Health.	17	101000	2022
Nishio M, Takagi D*, Shinozaki T, Kondo N.	Community social networks, individual social participation and dietary behavior among older Japanese adults: Examining mediation using nonlinear structural equation models for three-wave longitudinal data.	Prev Med.	149	106613	2021
Okuzono SS*, Shiba K, Kim ES, Shirai K, Kondo N, Fujiwara T, Kondo K, Lomas T, Trudel-Fitzgerald C, Kawachi I, VanderWeele TJ.	Ikigai and subsequent health and wellbeing among Japanese older adults: Longitudinal outcome-wide analysis.	Lancet Reg Health West Pac.	21	100391	2022
Okuzono SS*, Shiba K, Lee H.H, Shirai K, Koga HK, Kondo N, Fujiwara T, Kondo K, Grodstein F, Kubzansky LD, Trudel-Fitzgerald C.	Optimism and Longevity Among Japanese Older Adults.	J Happiness Stud.	16(1)	52-62.	2022
Okuzono SS, Lee HH, Shirai K, Kondo N, Kawachi I, Kubzansky LD	Optimism, ikigai, and lifespan among Japanese older adults.	Psychosom Med	82(6)	A152-153	2020
Rosenberg, M., Kondo, K., Kondo, N., Shimada, H., & Arai, H	Primary care approach to frailty: Japan's latest trial in responding to the emerging needs of an ageing population.	Integrated Healthcare Journal	2(1)	e000049	2020

Saito K, Shobugawa Y, Aida J, Kondo K	Frailty is Associated with Susceptibility to and Severity of Pneumonia in Functionally-independent Community-dwelling Older Adults: A JAGES Multilevel Cross-sectional Study.	Scientific Rep	11(1)	7966	2021
Saito M*, Kondo N, Aida J, Saito J, Anezaki H, Ojima T, et al.	Differences in Cumulative Long-Term Care Costs by Community Activities and Employment: A Prospective Follow-Up Study of Older Japanese Adults.	International journal of environmental research and public health.	18(10).	5414	2021
Sato K*, Kondo N, Hanazato M, Tsuji T, Kondo K.	Potential causal effect of physical activity on reducing the risk of dementia: a 6-year cohort study from the Japan Gerontological Evaluation Study.	Int J Behav Nutr Phys Act.	18(1)	140	2021
Sato K*, Kondo N, Kondo K.	Pre-pandemic individual- and community-level social capital and depressive symptoms during COVID-19: A longitudinal study of Japanese older adults in 2019-21.	Health Place.	74	102772	2022
Sato K*, Kondo N, Murata C, Shobugawa Y, Saito K, Kondo K.	Association of pneumococcal and influenza vaccination with patient-physician communication in older adults: A nationwide cross-sectional study from the JAGES 2016.	Journal of Epidemiology.	10.2188/jea JE20200505.		2021
Sato K, Amemiya A, Haseda M, Takagi D, Kanamori M, Kondo K, Kondo N.	Post-disaster Changes in Social Capital and Mental Health: A Natural Experiment from the 2016 Kumamoto Earthquake.	Am J Epidemiol.	189(9)	910-921	2020
Sato K, Ikeda T, Watanabe R, Kondo N, Kawachi I, Kondo K.	Intensity of community-based programs by long-term care insurers and the likelihood of frailty:	Soc Sci Med.	245	112701	2019

	Multilevel analysis of older Japanese adults.				
Shiba K*, Kawahara T, Aida J, Kondo K, Kondo N, James P, et al.	Causal Inference in Studying the Long-term Health Effects of Disasters: Challenges and Potential Solutions.	Am J Epidemiol.	190(9)	1867-1881.	2021
Takagi D., Kondo N., Tsuji T., & Kondo K.	Parks/sports facilities in local communities and the onset of functional disability among older adults in Japan: The J-shaped spatial spillover effects.	Health & Place.	75	102801	2022
Tamada Y, Takeuchi K, Yamaguchi C, Saito M, Ohira T, Shirai K, Kondo K	Does laughter predict onset of functional disability and mortality among older Japanese adults? the JAGES prospective cohort study.	J Epidemiol	31(5)	301-307	2020
Tamada Y, Yamaguchi C, Saito M, Ohira T, Shirai K, Kondo K, Takeuchi K.	Does laughing with others lower the risk of functional disability among older Japanese adults? The JAGES prospective cohort study.	Prev Med	155	106945	2021
Tamura M, Hattori S, Tsuji T, Kondo K, Hanazato M, Tsuno K, Sakamaki H.	Community-Level Participation in Volunteer Groups and Individual Depressive Symptoms in Japanese Older People: A Three-Year Longitudinal Multilevel Analysis Using JAGES Data.	Int J Environ Res Public Health	18(14)	7502	2021
Tani Y, Fujiwara T, Kondo K	Cooking skills related to potential benefits for dietary behaviors and weight status among older Japanese men and women: a cross-sectional study from the JAGES.	Int J Behav Nutr Phys Act	17(1)	82	2020
Tani Y, Fujiwara T, Kondo K.	Adverse Childhood Experiences and Dementia: Interactions With Social Capital in the Japan Gerontological Evaluation Study Cohort.	Am J Prev Med	61(2)	225-234	2021

Tsuji T, Kanamori S, Watanabe R, Yokoyama M, Miyaguni Y, Saito M, Kondo K.	Watching sports and depressive symptoms among older adults: a cross-sectional study from the JAGES 2019 survey.	Sci Rep	11(1)	10612	2021
Tsuji T, Kanamori S, Yamakita M, Sato A, Yokoyama M, Miyaguni Y, Kondo K.	Correlates of engaging in sports and exercise volunteering among older adults in Japan.	Sci Rep	12(1)	3791	2022
Tsuji T, Saito M, Ikeda T, Aida J, Cable N, Koyama S, Noguchi T, Osaka K, Kondo K	Change in the prevalence of social isolation among the older population from 2010 to 2016: A repeated cross-sectional comparative study of Japan and England.	Arch Gerontol Geriatr	91	104237	2020
Ukawa S*, Tamakoshi A, Tani Y, Sasaki Y, Saito J, Haseda M, Shirai K, Kondo N, Kondo K, Kawachi I.	Leisure activities and instrumental activities of daily living: A 3-year cohort study from the Japan Gerontological Evaluation Study.	Geriatr Gerontol Int.	22(2)	152-159.	2022
Ukawa S, Tamakoshi A, Okada Y, Ito YM, Taniguchi R, Tani Y, Sasaki Y, Saito J, Haseda M, Kondo N, Kondo K	Social participation patterns and the incidence of functional disability: The Japan Gerontological Evaluation Study..	Geriatrics & Gerontology International	20(8)	765-772	2020
Wang, Y, Shirai, K, Ohira, T, et al.	Occasions for laughter and dementia risk: Findings from a six-year cohort study.	Geriatr Gerontol Int.	22(5)	392-398	2022
Yamakita M, Kanamori S, Kondo N, Ashida T, Fujiwara T, Tsuji T, Kondo K.	Association between childhood socioeconomic position and sports group participation among Japanese older adults: A cross-sectional study from the JAGES 2010 survey.	Prev Med Rep.	18	101065	2020
Yanagi N, Inoue Y, Fujiwara T, Stickley A, Ojima T, Hata A, Kondo K	Adverse childhood experiences and fruit and vegetable intake among older adults in Japan.	Eat Behav	38	101404	2020

Yazawa A*, Shiba K, Inoue Y, Okuzono SS, Inoue K, Kondo N, Kondo K, Kawachi I.	Early childhood adversity and late-life depressive symptoms: unpacking mediation and interaction by adult socioeconomic status.	Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol.	57(6)	1147-1156	2022
Yazawa A, Inoue Y, Kondo N, Miyaguni Y, Ojima T, Kondo K, Kawachi I.	Accuracy of self-reported weight, height and body mass index among older people in Japan.	Geriatrics & Gerontology International	20(9)	803-810	2020
阿部紀之,井手一茂,辻大士,宮國康弘,櫻庭唱子,近藤克則.	狭義の通いの場への1年間の参加による介護予防効果：JAGES 松戸プロジェクト縦断研究.	総合リハビリテーション	50(1)	61-67	2022
井手一茂,辻大士,渡邊良太,横山芽衣子,飯塚玄明,近藤克則.	高齢者における通いの場参加と社会経済階層：JAGES 横断研究.	老年社会学	43(3)	239-251	2021
飯塚玄明, 岡部大地, 近藤克則	まちづくり～フレイル予防のエビデンスから実践まで～	Gノート 羊土社	7(6)	128-137	2020
尾島俊之、細川陸也、相田潤、近藤克則、近藤尚己	健康寿命の簡便な計算方法の開発.	日本循環器病予防学会誌	55(3)	224	2020
木村美也子, 尾島俊之, 近藤克則	新型コロナウイルス感染症流行下での高齢者の生活への示唆： JAGES 研究の知見から.	日本健康開発雑誌	41	44633	2020
小林秀輔, 辻大士, 上野貴之, 近藤克則.	郵送調査の管理強度・高回収率・督促で地域相関分析の相関係数は高くなるか	介護予防・健康づくり研究	印刷中		
近藤 尚己, 森 亮太, 山中 光茂.	鼎談 貧困と医療・健康格差を問う（特集 貧困と医療：貧困大国ニッポンの医療・健康格差）.	月刊保険診療	76(10)	15-22.	2021
近藤克則	健康格差に対する日本の公衆衛生の取り組み その到達点と今後の課題.	公衆衛生	84(6)	368-374	2020
斎藤 雅茂. 近藤 尚己. 辻 大士. 尾島 俊之. 藤田 欽也. 相田潤. 近藤克則.	要支援・要介護リスク評価尺度点数別の累積介護サービス給付費：介護保険給付実績の6年間の追跡調査.	日本公衆衛生雑誌.	68(11)	743-752	2021
高橋聰, 近藤克則, 中村恒穂, 鄭丞媛, 井手一茂, 香田将	自殺対策のための実用的な地域診断指標の開発：ソーシャル・キャピタルと自殺死亡	自殺総合政策研究	3(2)	44885	2021

英, 尾島俊之.	率の関連における再現性検証.				
田近敦子,井手一茂,飯塚玄明,辻大士,横山芽衣子,尾島俊之,近藤克則.	「通いの場」への参加は要支援・要介護リスクの悪化を抑制するか:JAGES2013-2016 縦断研究.	日本公衆衛生雑誌	69(2)	136- 145	2022
辻 大士*, 高木 大資, 近藤 尚己, 丸山 佳子, 井手 一茂, LINGLING, 王鶴群, 近藤 克則	通いの場づくりによる介護予防は地域間の健康格差を是正するか?:8 年間のエコロジカル研究	日本公衆衛生雑誌.	69(5)	383-393	2022
渡邊良太, 辻大士, 井手一茂, 林尊弘, 斎藤民, 尾島俊之, 近藤克則	地域在住高齢者における社会参加割合変化—JAGES6 年間の繰り返し横断研究—.	厚生の指標	68(3)	44601	2021
東馬場要,井手一茂,渡邊良太,飯塚玄明,近藤克則.	高齢者の社会参加の種類・数と要介護認定発生の関連—JAGES2013 2016 縦断研究.	総合リハビリテーション	49(9)	897-904	2021
細川陸也, 近藤克則, 岡田栄作, 山口知香枝, 尾島俊之	健康寿命および平均寿命に関連する高齢者の生活要因の特徴.	厚生の指標	67(7)	31-39	2020
宮澤拓人,井手一茂,渡邊良太,飯塚玄明,横山芽衣子,辻大士,近藤克則.	高齢者が参加する地域組織の種類・頻度・数とうつ発症の関連-JAGES2013-2016 縦断研究.	総合リハビリテーション	49(8)	789-798	2021